

令和8年度 第1回尾張旭市障害者地域自立支援連携会議（運営会議）会議要旨

1 開催日時

令和8年7月1日（水）

開会 午後1時30分

閉会 午後3時

2 開催場所

尾張旭市役所 3階 303会議室

3 出席した構成員

相談支援部会長 松田 真希、こども部会長 小野 望、
精神障がい者支援部会長 稲田 寛之、日中活動・就労部会長 伊東 大介

4 欠席した構成員

医療的ケア児等支援部会長 榎本 博文、
尾張東部圏域地域アドバイザー 竹田 晴幸

5 出席した事務局職員

地域福祉課長補佐兼障がい福祉係長 森下 亜希子、
地域福祉課長補佐 北村 亜紀子、障がい福祉係主事 北川 貴哉、岩永 拓也、
こども家庭課こどもの発達センター発達支援係長 柳田 麻維、
尾張旭市障がい者基幹相談支援センター長 村田 健郎、
尾張旭市障がい者基幹相談支援センター 五味 よう子、水野 旭、山田 涼子、
鈴木 真紀子

6 欠席した事務局職員

尾張旭市障がい者基幹相談支援センター 理事長 川上 雅也

7 議題

- (1) 令和8年度自立支援連携会議の活動報告及び年間計画について
- (2) 障がい児・者の性に関する取り組みについて
- (3) 日中サービス支援型共同生活援助の評価等について
- (4) 地域生活支援拠点等に係る整備・評価について
- (5) その他

8 会議の要旨

- (1) 令和8年度自立支援連携会議の活動報告及び年間計画について

ア 会議の位置付けや意義の確認

事務局から、会議の位置付け及び意義について説明を行い、確認した。

イ 各部会における活動内容

【相談支援部会】

- ・相談支援専門員の役割に対する理解を深めるため、地域アドバイザーを講師とした基礎講座を6月12日に開催した。
- ・18歳到達ケースの円滑な引継ぎに向け、児の相談支援専門員から現段階から

引き継ぎを希望するケースの概要を共有し、振り分けを行う予定。また、児から者へのシームレスな移行を目的とし、基幹相談支援センターを中心に引継ぎの仕組みを検討する予定。

- ・各相談支援専門員から、市による認定調査まで申請から約1か月を要しており、サービス利用開始が遅れているとの意見があった。

【こども部会】

- ・障がい児の性に関する課題への対応として、秋頃に研修会を開催予定。
- ・障がい児・者の事業所と連携し、「あさひシルミルフェア」を6月19日に開催した。参加事業所は児が18事業者、者が9事業者、来場者は75人（関係者40人、一般参加35人）であった（詳細は集計中）。
- ・障害児支援に関する地域課題の抽出及び次年度の取組について検討する予定。

【医療的ケア児等支援部会】

- ・医療的ケア児への支援状況を共有するとともに、地域課題の抽出及び支援者全体の支援力向上を目的として、ワーキンググループによる事例検討を実施する予定。

【精神障がい者支援部会】

- ・継続的な課題となっている医療と福祉の連携方法について、それぞれの立場や役割の違いにより共有される情報量に差が生じていることから、利用者本位の支援につながるよう、双方の課題を整理しながら具体的な取組を検討する。早期発見・早期治療を基本とし、入院前後の情報共有を促進することで、連携不足の解消を図る予定。
- ・地域における精神障がい者への理解促進及び支援体制の充実を目的として、令和7年度改選後の民生委員を対象とした研修の実施について検討する予定。

【日中活動・就労部会】

- ・事業所説明会及び福祉フェスを開催予定。
- ・研修会及び勉強会を実施予定。
- ・車椅子利用者が利用できる事業所が少ないことを踏まえ、車椅子利用者と事業所双方の考え方や必要な支援について協議する予定。
- ・「わいわいフェア」（8月8日）において事業所説明会を開催予定。
「あさひシルミルフェア」では、グループホームに関する情報も知りたいとの意見があったことから、グループホームに関するパンフレット等の設置も検討している。また、「福祉フェス」（9月5日）についても情報共有を行った。
- ・民生委員の改選に伴い、事業所見学を希望する依頼があったため、見学可能な事業所については対応していく予定。

ウ 各部会からの報告に対する事務局からの説明等

- ・認定調査の遅延については、3年ごとの更新対象者が例年より多く、調査に遅れが生じていることが要因である。現在、地域福祉課では関係機関と連携し、調査日程や実施体制を調整することで、新規及び更新対象者の調査をできる限

り早期に実施し、受給者証の発行につなげるよう努めている。

しかしながら、体制上の問題に加え、今年度は新規対象者も多いことから、利用者や関係機関には御迷惑をお掛けしている。

引き続き円滑な認定に努めるが、利用希望者には現状について御理解いただくよう御説明いただきたい。

なお、早急な対応が必要なケースについては地域福祉課へ相談していただきたい。また、この内容については相談支援部会内での情報共有をお願いしたい。

- ・「あさひシルミルフエア」は盛況であったと認識しているが、日中活動・就労部会としての手応え等について伺いたい（事務局森下）。

【伊東委員】

想定を上回る参加があり、手応えを感じている。小学3年生の子どもを持つ保護者から就労に関する相談もあり、早い段階から情報収集を行うことは有意義であると感じた。今後も開催されるのであれば参加したい。

【小野委員】

参加した保護者と子どもの将来や就労について話し合う機会を持つことができ、就労系事業所への関心を持っていただけたことは大変有意義であった。

エ 各部会からの報告に対する事務局からの質問等

- ・こども部会における性に関する意見交換の具体的な内容について伺いたい（事務局村田）。

【小野委員】

学校や保育園等において、性に関する支援がどのように行われているか、また、年齢に応じた適切な対応方法について把握したいとの意見があった。

また、令和8年12月に施行予定のこども性暴力防止法を踏まえ、各事業所の支援者として把握すべき事項について確認したいとの意見もあった。

- ・医療的ケア児等支援部会が予定している事例検討について、地域課題の抽出を目的とするものと、支援者全体の支援力向上を目的とするものでは趣旨が異なると考えられるが、具体的な進め方は想定しているか（事務局村田）。

【事務局岩永】

関係機関がどのような経緯で支援体制を構築し、どのような支援を実施しているかを共有する予定である。また、昨年度作成した支援者向けフローチャートを活用し、それぞれの役割について改めて整理したいと考えている。

対象とする事例については、事例数が少なく個々の背景も複雑であることから、現在検討中である。その上で、個々の事例を振り返り、支援できた点や課題となった点、地域資源や受入体制を確認しながら支援者間で経験を共有し、支援力の向上につなげていきたい。

- ・あさひシルミルフエアに関し、グループホームに関してどのような情報を知りたいとの意見があったのか。また、その他のアンケート結果について伺いたい（事務局水野）。

【事務局山田】

グループホームについては、親亡き後を見据え、生活の場としてどのような施設があるのか知りたいとの意見があった。

【小野委員】

「1回の参加で児・者双方の説明を受けることができて良かった」との意見があった一方で、「会場が狭かった」との意見も寄せられた。

【伊東委員】

合同開催としたことで、1回の参加で児・者双方の説明を受けられたことは、参加者にとって有意義であったと感じている。

- ・医療的ケア児等については、18歳到達時に児から者の支援へ移行することから、相談支援専門員の参考となるモデルケースを共有して欲しい（事務局山田）。

【事務局村田】

相談支援部会において、医療的ケア児等をテーマとしたアンケート等を実施し、実態を把握することが有効でないかと考える。

【事務局】

医療的ケア児等支援部会ではワーキンググループを予定しているため、その結果を部会で報告した上で、資料等を共有できると良い。

- ・精神障がい者支援部会について、民生委員向け研修は、いつ頃を予定しているか（事務局森下）。

【事務局村田】

昨年度には秋頃の実施を想定していたが、詳細な時期については未定である。

- ・児の相談窓口について、相談先が複数あるため分かりにくいとの声を聞くことがある。現在の役割分担について伺いたい（事務局五味）。

【事務局森下】

現状では一定の役割分担を整理しているものの、相談体制の在り方については今後の検討課題である。

オ 年間計画について（事務局説明）

全体会議については、昨年度は1回の開催であったが、今年度は市の障がい者福祉計画等（3年ごとに策定）の策定年度であることから、全4回の開催を予定している。

また、秋頃にはパブリックコメントを実施し、市民からの御意見も踏まえながら計画内容を取りまとめていく予定である。

(2) 障がい児・者の性に関する取り組みについて

【事務局森下】

令和8年12月に施行予定のこども性暴力防止法への対応も踏まえ、本件については、こども部会に限らず自立支援連携会議全体の議題として取り上げることも検討していた。しかし、現時点ではこども部会における優先課題であることを確認したため、今年度は同部会において検討を進め、その結果を踏まえ、部会横断

的な課題として取り扱うかどうか検討することとした。

【小野委員】

今年度は、支援者として適切な対応方法について、こども部会を中心に検討する予定である。今後、障がい者支援事業所からの意見も必要となる場合は、協力をお願いしたい。

【事務局森下】

センシティブな課題であることから、相談できずに困っている支援者や利用者にも適切に対応できるよう、今後も継続して情報共有を図っていきたい。

(3) 日中サービス支援型共同生活援助の評価等について（事務局説明）

日中サービス支援型共同生活援助を実施するグループホームについては、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準の中で、協議会等による評価を受けるとともに必要な要望及び助言を受ける機会を設けることとされている。本市においては、「ソーシャルインクルーホーム尾張旭吉岡町」及び「ソーシャルインクルーホーム尾張旭狩宿町」を対象として、今年度も第3回運営会議において評価を実施する予定である。

(4) 地域生活支援拠点等に係る整備・評価について（事務局説明）

国の基本指針では、令和6年度から令和8年度末までに各市町村が地域生活支援拠点等を整備し、コーディネーター等の配置や支援ネットワークの構築を進めるとともに、その運用状況について、年1回以上検証・検討することが求められている。

本市では、地域生活支援拠点等に求められる機能については一定程度整備されており、評価も実施している。一方で、コーディネーターについては未配置となっている。

県内54市町村のうち、コーディネーターが未配置である市町村は28市町村であり、そのうち令和8年度又は令和9年度に配置予定としている市町村は20市町村である。配置予定が未定となっているのは、本市を含めて8市町村であり、本市としても地域課題として取り組む必要があると認識している。

今年度は、市及び基幹相談支援センターによるワーキンググループを立ち上げ、地域生活支援拠点等の整備について専門的な協議を進める予定である。必要に応じて関係者へ協力を依頼することもあるが、最終的には自立支援連携会議において協議し、方向性を決定していきたい。

(5) その他（事務局説明）

- ・運営会議で調整した内容については、全体会議へ確実に報告していきたい。
今年度の全体会議は全4回開催するが、第1回から第3回までは障がい者福祉計画等の策定を主な目的とするため、運営会議での調整結果等については、第4回全体会議に向けて、検討していく。
- ・虐待防止研修及び人材育成研修について、運営会議において実施時期等を調整し、

計画的に実施する。

- ・ こども部会において、児の相談窓口や各機関の役割を分かりやすく示した図等を作成できるよう、検討をお願いしたい。
- ・ 事業所説明会等の会場を選定する際は、医療的ケア児や車椅子利用者など、障がいのある方への配慮を十分踏まえた会場選定をお願いしたい。